

健康福祉サービス第三者評価結果 公表 共通様式

1 事業者情報

福祉サービスの種別	保育
事業所名	栗東市立大宝西保育園
代表者氏名（管理者）	園長 内田 祥子
法人名	栗東市
定員（利用人数）	90名（85名）
施設・事業所所在地	滋賀県栗東市十里400番地
T E L	077-551-6990
F A X	077-551-0486
電子メール	yoji@city.ritto.lg.jp
ホームページアドレス	http://www.city.ritto.lg.jp/

2 第三者評価機関

第三者評価機関名	ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター
評価実施期間	平成30年9月3日と9月5日

○ 総合評価

- ・栗東市の北西部に位置し、周辺に田畑が広がる豊かな自然環境に囲まれた保育園である。地元住民の熱心な要望により昭和54年に栗東市立の保育園として開園された。

『子どもの人権と最善の利益を守り<生きる力>の基礎を培う』と謳う市の保育・教育の理念に基づきながら、全体的な計画が作成されている。

その保育実践においては、『園の保育方針<一人ひとりの子どもの姿、発達、家庭の背景を保育者全体で共通理解し保育に取り組む>』等4項目を骨子として、日々の保育を進めていく中で、保護者や地域の人々との交流を相互に深めながら、子どもの人権を守り、親子の人権啓発活動の推進等に積極的に取り組んできている。

- ・地域・保幼交流「大西っ子まつり」、世代間交流「ひまわり交流」、人権集会「なかよし集会」等の活動を通して地域及び世代間の交流等を進めている。保育園内外の様々な活動や行事等を通じて、地域の人々の協力を得る中で子ども達の育ちを共有し、保育園と地域が一体となって子育てに取り組んできたことが伝統となって醸成されてきている。

○ 特に評価の高い点

- ・園児を孫の様に慈しみ、ボランティアとして園活動を支援している高齢者の活動や地元住民の園に対する思いは長年にわたり受け継がれ、『おらが在所の保育園』としての開設当初からの思いは強く温かい。運動会時期等における大音量や騒音も元気の源として理解され、歓迎しているという言葉にぬくもりを感じる。

- ・人権を認め合い尊重しあうという児童憲章や子どもの権利条約等の、理解・共有・啓発に力を注ぎ、一人ひとりの個性や違いを認め合い尊重する取組を大切にしている。

- ・園長・主任を中心に常駐の看護職員を含む保育者間のコミュニケーションの良さを日常保育に活かしている。朝夕礼の挨拶励行、情報交換等、日常保育の連携や保育目標の確認を実施し「各クラス保育目標の月案・週案に対するPDCAサイクルの実践」等のきめ細かい保育に努めている。

- ・保護者アンケートは100%の完全回収率で保護者の園に対する思いが、如実に表れている。アンケート結果は、下記2項目を含め4項目で90%を超える高い肯定率となっている

- ・自然に触れたり、地域に関わるなど園外活動はなされていると感じますか→

日常的に子ども達は散歩用に手作りの小さなポシェットを携え、農道や近隣の公園等に出掛け、草花・木の実等を採取したり、小動物に触れたり、近隣農家に畑を借りて野菜作りを教わったりなどを日常の中で繰り返し体験している。世話をすることや収穫のよるこびを保育者や周りの人達と共に味わい、そこから自然の営みや生きる力に触れたりしながら、豊かな心と思考力、表現力を育んでいる。

- ・献立表やサンプルなどで、毎日の給食内容がわかるようになっていますか→

前もって月間献立表の配布と共に降園時に合わせてテラスに給食サンプルを展示しているので具体的にわかりやすく、保護者の満足度は高い。

・薄暮保育では各クラスの担当保育者が子ども達をゆったりと見守る異年齢児保育を実施し一人ひとりを大切にしている保育を目指している。

・園児が食事を楽しみ残さず食べられる様に、苦手なメニューを食べた時には「がんばり表」にシールを貼るなど工夫をしている。

○ 改善を求められる点

・開園後39年経過し建物・設備等の老朽化が見られる。下記事項の取組を進めて欲しい。

・バリアフリー化の工夫と推進

・園正門にインターホンを新たに設置した方がよいのではないか。

・保護者アンケートの結果、下記4項目を含め6項目で肯定率が65%を下回り、僅かずつではあるが、3年連続で低下している事が危惧される。

① 保育に意見や苦情を伝えやすいか

② 不審者等の安全管理対策は大丈夫か

③ 育児相談や地域の子育て支援の取り組みを知っているか

④ 入園時、地震や災害の対応方針の説明を受けたか

① については、園全員で再取組みを検討してほしい。

②～④項目に於いては、園の取り組みの実情が保護者に必ずしも理解（認知）されていないと思われる。現行の報・連・相や啓発を丁寧に継続して実施する事やSNSの有効活用で、解消するのではないだろうか。

・④については、昨今の情勢下、特に保護者の関心事も強く、訓練内容の広報や対処を望む。いずれも保護者と当園との絆を強めるポイントでもあるので、保育者全員の検討課題として保護者との連携を密にし、出来る事から前進される事を望みたい。

4、 第三者評価結果に対する事業者のコメント

今回の結果について、真摯に受けとめ、今後の園運営に活かしていくよう努めてまいります。特に、肯定率が65%を下回り、3年連続で少しずつ低下している項目については、全職員で共通理解を図り、前向きに取り組んでいきたいと考えます。

「保育に意見や苦情を伝えやすい」「情報交換以外相談できる」という項目において、まだまだ十分ではないということのご指摘をいただきました。この点につきましては、園運営の中で、特に大事にしている保護者様との連携の在り方についてのご指摘であり、子どもや保護者、地域の方々にとって、より安心して利用していただける施設として、さらに取り組みを深めてまいります。

また安全管理、災害対策等におきましても具体的な方策を検討して、園運営をしていくように心がけてまいります。今後も保護者や地域の方々にとって、安心安全な子育て拠点としてその役割を果たしていけるように、全職員で前向きに取り組んでいきたいと考えます。